

原 著

## 中学校保健体育科教諭の体育実技授業における 頻回見学者への対応に関する研究

橋本実来\*<sup>1</sup> 中川麻衣子\*<sup>2</sup> 中尾有子\*<sup>2</sup> 難波知子\*<sup>2</sup>

### 要 約

保健体育科における体育実技授業では、怪我や病気などの理由で体育実技に取り組むことができず、見学をしている生徒が存在する。さらに、その見学には、長期間にわたり体育を見学せざるを得ない生徒も存在する。そこで、本研究では、全国の中学校保健体育科教諭を対象とした質問紙調査により、体育実技授業の頻回見学者への対応の実態を明らかにすることを目的とする。調査により、以下の3点が頻回見学者の実態として明らかとなった。(1) 頻回見学者のいる体育実技授業を経験していた中学校保健体育科教諭は約60%あった、(2) 頻回見学者の傷病名は、骨折や捻挫などの「整形外科」が約70%を占め、心疾患などの内科的疾患や不登校などの精神科関連などもあり、頻回見学者の見学理由は多様であった、(3) 中学校保健体育科教諭は、体育実技授業において、頻回見学者への対応を行っているが、提示する学習内容やその評価方法に関する困難を抱えていた。これらの実態から、保健体育科教諭は、体育実技授業における頻回見学者については、個々の見学理由に応じた対応を行い、体育に関する学びを保障する必要がある。さらに、今後の課題として、多様な見学理由をもつ頻回見学者への学習内容とその評価方法について検討する必要性が窺えた。

### 1. 緒言

保健体育科の体育実技授業では、けがや体調不良などで実技を行うことができないという理由や、運動嫌いで体育をしたくないという理由で、体育の授業には出席しているが実技には参加せず、見学をする生徒、つまり、見学者が存在する。橋本ら<sup>1)</sup>は、保健体育科教育実習生を対象とした調査により、対象者の約7割が見学者のいる体育実技授業を行っていたことから、体育実技授業において日常的に見学者が存在するという事実を報告している。よって、保健体育科教諭は、体育実技授業において、実技を実施することができない見学者の見学理由に応じた対応を行うことで、体育実技授業に関する学習保障を行っていると考えられる。また、三浦ら<sup>2)</sup>は、体育実技授業における見学者を時間的に分類すると、「急性で突発的な者」と「慢性的な者」に分けられると述べている。したがって、保健体育科教諭は、短期間の見学者への対応のみならず、長期間にわたる見

学者への対応が求められる。

ところが、保健体育科の体育は、長年、運動の実践が学習活動の中心であることや<sup>3)</sup>、体育は運動することに意義があることから、出席することが何よりも強調されること<sup>4)</sup>が特性として挙げられてきた。しかし、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説保健体育編<sup>5)</sup>では、保健体育科における体育分野の目標において、運動に関する技能を身に付けるだけではなく、運動の行い方などの科学的知識を基に運動の技能を身に付けるといった、知識と技能を関連させて学習することを重視している。よって、これからの保健体育科の体育実技授業では、運動の実践だけではなく、体の動かし方や用具の使用方法など、運動に関する知識を身に付け、それを基に技能を習得することができる学習が期待されている。

一方、近年、学校現場では、特別な支援を必要とする児童生徒への細やかな対応が期待されている<sup>6)</sup>。また、学校生活において、障害のある生徒と

\*1 川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科 健康体育学専攻

\*2 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科

(連絡先) 橋本実来 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

E-mail: wd221002@kwmw.jp

障害のない生徒が共に学習していることから、特別支援教育が推進されている。特別支援教育におけるインクルーシブ教育システムは、障害のある生徒と障害のない生徒が同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要であるとしている<sup>7)</sup>。

以上のことから、実技の実施が不可能で個別の対応を必要とする見学者が存在する体育実技授業でもインクルーシブ教育システムを活用し、長期間にわたる見学者一人一人に応じた対応を行うことが求められる。しかしながら、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説保健体育編<sup>5)</sup>において、見学者対応に関する内容の記載は、水泳領域の「見学の場合も、状況によっては、安全の確保や練習に対する協力者として参加させたりするなどの配慮をするようにする」という記載のみである。岩沼と長見<sup>8)</sup>は、体育実技授業の見学者に対する教育的配慮については、保健体育科教諭の幅広い裁量に委ねられていることを報告しており、そのため、見学者対応の拠り所となるものはないことが予想される。しかし、保健体育科教諭における見学者の対応に関する報告は少なく、さらに、頻回見学者に関する報告は皆無に等しい。

## 2. 目的

本研究は、中学校保健体育科教諭による体育実技授業の頻回見学者への対応の実態を明らかにすることを目的とする。

## 3. 方法

### 3.1 サンプルの抽出方法

母集団は令和2(2020)年度文部科学省統計による全校公立中学校9,291校である。許容誤差5%(信頼レベル95%)を担保するサンプル数を得るために、回収率25%と推定して質問紙を郵送する中学校1,500校を算出した。対象校の抽出方法は、全国の中学校所在地が掲載されている「学校総覧」から上記の全中学校をナンバリングし、ExcelのRAND関数で乱数を作成して無作為抽出した。

### 3.2 調査方法及び調査対象者

調査方法は、無記名自記式質問紙調査を行い、調査時期は、2021年9月から10月末日とした。調査対象者は、3.1の方法で抽出した中学校に勤務する保健体育科教諭1名とした。

### 3.3 調査内容及び分析方法

調査内容は、令和3(2021)年度の1学期時点にお

ける①保健体育科教諭としての経験年数、②体育実技授業における見学者対応、③頻回見学者に対する対応、④学習指導案に記載された見学者対応の記載内容、⑤見学者対応に対する意見や提案である。このうち、②は、学習指導要領における体育分野の領域AからG領域別に問うた。AからG領域とは、「A 体づくり運動」、「B 器械運動」、「C 陸上競技」、「D 水泳」、「E 球技」、「F 武道」、「G ダンス」の7領域である。そして、本研究で用いるデータは、①、③、⑤である。データ分析は、調査内容①は木原<sup>9)</sup>による教師の発達段階の「若手教師」(5年未満)、「中堅教師」(5年以上15年未満)、「ベテラン教師」(15年以上)に分類した。③と⑤で得られた記述内容は、帰納的に分類した。統計処理にはExcelの分析ツールを用いて、単純集計を行った。

## 3.4 用語の定義

- 1) 体育実技授業とは、中学校指導要領保健体育科体育分野の領域AからGの運動領域である。
- 2) 頻回見学者とは、授業の3分の1以上を見学した生徒と定義する。

## 4. 結果

本調査では、1,500校中369校から得られた(回収率25%)。

### 4.1 回答者の属性

頻回見学者がいたと回答した中学校保健体育科教諭152名の教職経験年数は、「若手教師」が33名(21.7%)、「中堅教師」が62名(40.8%)、「ベテラン教師」が57名(37.5%)であった。性別は、男性が99名(65.1%)、女性が51名(33.6%)、無回答が2名(1.3%)であった。

### 4.2 頻回見学者への対応事例

中学校保健体育科教諭が、令和3(2021)年度の1学期の体育実技授業において、見学者に対して個別学習を提示していたのは296名(80.2%)であり、そのうち頻回見学者がいたと回答した者は169名(57.1%)であった。また、本研究では、回答に欠損があった17名のデータを除外し、152名から278の頻回見学者への対応事例を収集することができた。

### 4.3 頻回見学者の見学理由

中学校保健体育科教諭が対応した頻回見学者の見学理由を表1に示した。278の頻回見学者への対応事例のうち、「けが」が145件(52.2%)、「病气」が43件(15.5%)、「月経」が25件(9.0%)、「精神的」が20件(7.2%)、「その他」が34件(12.2%)であった。さらに、「その他」の内容には、「体操服・水着忘れ」や「着替えが恥ずかしい」、「体育への苦手意識」など体育実技授業の特有の理由もみられた。

表1 頻回見学者の見学理由

見学理由	N=278	
	n	%
けが	145	52.2
病気	43	15.5
月経	25	9.0
精神的	20	7.2
その他	34	12.2
複数回答	11	4.0

表2 頻回見学者の傷病名

傷病名のカテゴリ	N=195	
	n	%
整形外科	134	68.7
内科的疾患	22	11.3
精神科関連	8	4.1
産婦人科関連	5	2.6
皮膚科	4	2.1
眼科	2	1.0
耳鼻科咽頭科	1	0.5
その他	19	9.7

表3 頻回見学者に提示された学習内容

カテゴリ	学習内容	N=454	
		n	%
学習活動	見学者ワークシートへ記入	230	50.7
	他の生徒へアドバイス	43	9.5
	グループワークへの参加	17	3.7
	可能な運動実施	12	2.6
	補助教材を用いた学習・課題	6	1.3
	観察	6	1.3
	補講	1	0.2
補助活動	審判	21	4.6
	ビデオ撮影	25	5.5
	得点係・タイマー係	14	3.1
	授業運営補助	25	5.5
	他の生徒の補助	12	2.6
その他	準備・片付け	37	8.1
	その他	5	1.1

#### 4.4 頻回見学者の傷病名の分類

中学校保健体育科教諭が対応した頻回見学者の傷病名に関する記述は、278の頻回見学者への対応事例のうち195件あり、「児童生徒の健康診断マニュアル」<sup>10)</sup>を参考に分類し、その結果を表2に示した。骨折や捻挫などの「整形外科」が134件(68.7%)、心臓疾患や起立性調節障害などの「内科的疾患」が22件(11.3%)、怠学や不登校傾向などの「精神科関連」が8件(4.1%)、月経などの「産婦人科関連」が5件(2.6%)、皮膚病などの「皮膚科」が4件(2.1%)、視力低下や網膜剥離の「眼科」が2件(1.0%)、中耳炎の「耳鼻科咽頭科」が1件(0.5%)、「その他」が19件(9.7%)であった。

#### 4.5 頻回見学者への対応

##### 4.5.1 学習内容

中学校保健体育科教諭が、頻回見学者に提示した

学習内容に関する記述があったものが278の頻回見学者への対応事例のうち266事例(95.7%)であった。266事例の記述内容から抽出した454件のコードについて、意味内容別に分類した結果を表3に示した。その結果、頻回見学者への対応として、「見学者ワークシートの記入」や「他の生徒へのアドバイス」、「グループワークへの参加」などの<学習活動>が315件と、「記録測定の補助」や「審判」、「ビデオ撮影」などの<補助活動>が134件に分類することができた。以上の結果から、中学校保健体育科教諭が頻回見学者に対して提示する学習内容は<学習活動>と<補助活動>に整理することができ、これらの学習内容を、保健体育科教諭は、頻回見学者の見学理由と関連付けて個別に対応を行っている実態が明らかとなった。

#### 4.5.2 学習評価

中学校保健体育科教諭による頻回見学者への学習評価を表4に示した。278の頻回見学者への対応事例のうち、頻回見学者へ提示した学習内容に対して、評価項目に回答があったものが241事例（86.7%）、評価項目に回答がなかったものが37件（13.3%）であった。評価「有り」と回答したもののうち、「知識」が125件（51.9%）、「技能」が26件（10.8%）、「思考力」が172件（71.4%）、「判断力」が110件（45.6%）、「表現力」が86件（35.7%）、「態度」が208件（86.3%）であり、「態度」として評価しているものが最も多かった。

表4 頻回見学者への学習評価（有と回答分）

N=241		
評価	n	%
知識	125	51.9
技能	26	10.8
思考力	172	71.4
判断力	110	45.6
表現力	86	35.7
態度	208	86.3

#### 4.6 頻回見学者への対応上の困難

中学校保健体育科教諭による頻回見学者の対応上の困難に関する記述は、278の頻回見学者への対応事例の中に112件（40.3%）あった。頻回見学者への対応上の困難に関する記述の分析の結果、「評価方法」・「授業内容」・「一人一人への対応」の3つの視点を導出することができた（表5）。3つの視点のうち、最も回答数が多かった視点は、「評価方法」で78件（69.6%）であり、「期間が長かったため評価が難しい」、「評価の仕方が難しい」といった回答が見られた。「授業内容」は18件（16.1%）であり、「球

技などの単元の時は、どのような学習内容の指示が望ましいかが分からない」、「8時間も同じ作業だったので、もっと他にできることがあったのではないか」といった回答が見られた。「一人一人への対応」は16件（14.3%）であり、「本人の学習意欲の低い単元は、眠ってしまいそうになる」、「過体重の生徒で、グループ活動で動き回ることには抵抗があり、関わるのが難しかった」といった回答が見られた。

### 5. 考察

#### 5.1 体育実技授業における頻回見学者の実態

本研究では、中学校保健体育科教諭の約60%が、頻回見学者の対応を行っていた。体育に関する専門性について、須田と菅野<sup>11)</sup>は、体の動きを伴う体育の授業は、教室で行う授業とは違った専門性が要求されると述べている。したがって、体育実技授業は、他の教科に比べて、身体活動を多く伴うため、怪我や病気の状態によっては、運動制限があり、実技の実施が困難で、見学を頻回に行う生徒が存在している。さらに、頻回見学者の傷病名の分類では、骨折や捻挫などの「整形外科」が約70%であった。「学校の管理下の災害」<sup>12)</sup>の「負傷・疾病における種類別発生割合」のうち中学校では、骨折が31.8%、捻挫が22.9%であり、「整形外科」に関するものが半数を占めていることを報告している。この報告と関連させると、中学校における保健体育科では、整形外科的な負傷が原因で体育実技授業を見学する生徒の割合が高い傾向にあることが窺えた。また、整形外科における傷病だけではなく、心疾患などの内科的疾患や不登校などの精神科関連などがあったことから、頻回見学者の見学理由は多様であるがゆえに、見学理由を分類することも困難であることが明らかとなった。岩沼と長見<sup>8)</sup>は、「『サボリ』は『精神的理由（意欲に関する理由）』による見学となるが、授業者に対する建前上の理由として『身体的理

表5 頻回見学者への対応上の困難

			N=112
カテゴリ	n	%	代表的な記述内容
評価方法	78	69.6	・評価の仕方が難しい。
			・期間が長かったため評価が難しい。
			・技能を実施できないので評価に困る。
授業内容	18	16.1	・球技などの単元の時は、どのような学習内容の指示が望ましいかが分からない。
			・8時間も同じ作業だったので、もっと他にできることがあったのではないか。
			・一定期間学習参加できないため補償の有無で悩む。
一人一人への対応	16	14.3	・本人の学習意欲の低い単元は、眠ってしまいそうになる。
			・過体重の生徒で、グループ活動で動き回ることには抵抗があり、関わるのが難しかった。
			・自分が経験しない技の場合、補助も難しく、アドバイスもできなかった。

由』を用いていた可能性もある」と述べている。本研究の指導対象である中学生は、他の校種に比べて、不登校の生徒の割合が高く、生徒指導上の課題が多い<sup>13)</sup>。したがって、頻回見学者の見学理由は一つとは限らず、その理由には、不登校やいじめといった様々な背景がある可能性が考えられる。

### 5.2 保健体育科教諭による頻回見学者への対応

本研究では、中学校保健体育科教諭による頻回見学者への対応278事例のうち、頻回見学者へ学習内容を提示していた事例は9割であり、提示した学習内容では、「見学者ワークシート」という回答の割合は約50%であった。「見学者ワークシート」とは、見学者にワークシートを提示し、見学をしながら学習内容や振り返りを記入する、といったものである。「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」<sup>14)</sup>の「第3編 単元ごとの学習評価について(事例)」で挙げられている事例では、「知識」及び「思考・判断・表現」の2つの観点における評価は、主に学習カード等に記述された内容から評価の材料を得ようとしていると記載されている。このように、体育で用いられている学習カードやワークシートは、評価資料として活用できることから、見学者の体育実技に関する評価を行う際は、見学者へ提示する学習カードやワークシートを評価資料として用いることができる。上代<sup>15)</sup>は、学習カードには、運動が「できる」だけでなく、運動の仕方(コツ)や練習の方法などが「わかる」ための学習資料としても欠くことのできないものがあると、学習カードの必要性について述べている。本研究では、回答者の学校で実際に使用している学習カードの提示を求めなかったことから、学習カードの内容は明らかとなっていない。しかし、回答を得ることができた評価内容と関連させると、一貫性はなく、岩沼と長見<sup>8)</sup>の報告と同様に、保健体育科教諭にその対応が委ねられていることが窺えた。

さらに、本研究では、中学校保健体育科教諭の体育実技授業における頻回見学者の見学理由は、けが、病気、月経など多様であったことが明らかとなった。多様という点に着目すると、現在の学校現場では、多様な背景を持つ生徒への対応が期待されている。そこで、特別支援教育に着目する。学校現場では、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う特別支援教育が推進されている<sup>16)</sup>。具体的な事例として、横田<sup>17)</sup>は、病弱養護学校の体育や中学部の部活動など

では、児童生徒の実態に応じた新たな種目、ルール、用具の開発などを行いながら展開されていることを述べている。また、木村<sup>18)</sup>は、視覚障害者に対して一定のサポートが必要であり、一定のサポートを行うにあたっては、視覚障害者の気持ちに対する配慮とサポート内容は個人個人に応じたものでなければならないことを留意点として述べている。このように、特別支援教育では、教師として、生徒一人一人の実態に応じた対応を行うことが求められている。これらの事例は、体育実技授業における頻回見学者に汎用できる。つまり、保健体育科教諭は、一人一人の実態を把握し、その見学理由に応じた学習内容を提示することで、体育実技授業に関する学びの保障を行うことが求められる。

### 5.3 保健体育科教諭の頻回見学者への対応上の困難

本研究では、中学校保健体育科教諭は、体育実技授業頻回見学者対応を行っているが、提示する学習内容やその評価方法に関する困難を抱えているという実態が明らかとなった。また、岩沼と長見<sup>8)</sup>は、体育授業の見学者に対する教育的配慮については、保健体育科教諭の幅広い裁量に委ねられていると指摘している。そのため、体育実技授業における頻回見学者に提示する学習内容やその評価についても、保健体育科教諭の裁量に委ねられるといえる。一方、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説保健体育編<sup>5)</sup>において、見学者対応に関する内容の記載は、水泳領域の「見学の場合も、状況によっては、安全の確保や練習に対する協力者として参加させたりするなどの配慮をするようにする」という記載のみであった。このことから、保健体育科教諭が、頻回見学者へ提示する学習内容やその評価に関する困難を感じている原因の一つとして、頻回見学者への対応方法や評価方法を考える上で、拠り所とするものが存在していないということが考えられる。

## 6. 今後の課題

本研究では、中学校保健体育科教諭の約60%が、頻回見学者への対応を行っており、頻回見学者に対して学習内容を提示していた。しかしながら、その中には、提示した学習内容やその評価方法に関する困難を抱えている保健体育科教諭がいたことから、多様な見学理由をもつ頻回見学者への学習内容とその評価方法について検討することが今後の課題であると考えられる。

## 倫理的配慮

学校管理者である学校長への調査協力依頼文書と質問紙を郵送し、調査を承諾した場合は、所属する保健体育科教諭1名に関係書類を渡す旨、依頼した。倫理的配慮として、研究の主旨、参加の自由性、プライバシーの保護、研究成果の公表について明記し、質問紙には「調査協力に同意する」意思を記入する欄を設けた。本研究は、川崎医療福祉大学倫理委員会の承認を得て行った（承認番号：21-052）。

## 謝 辞

本研究の対象者として回答してくださった、中学校保健体育科の先生方、公務ご多用の中、有益なご意見や資料提供をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

## 利益相反開示

本研究に関連し、開示すべきCOI（利益相反）に関する企業などはない。

## 文 献

- 1) 橋本実来, 内田美奈, 香西庸希, 中尾有子, 中川麻衣子: 体育の授業における見学者への対応に関する事例的研究—教育実習生に着目して—. 川崎医療福祉学会誌, 30, 385-391, 2020.
- 2) 三浦孝仁, 鈴木久雄, 高橋香代: 見学者を減らす実践—個人個人に適した体育指導を目指して—. 体育の科学, 38, 781-784, 1988.
- 3) 杉山重利: 体育における見学の法的根拠. 体育の科学, 38, 781-784, 1988.
- 4) 木下秀明: 特集 見学を考える—はじめのことは—. 体育の科学, 38, 748-749, 1988.
- 5) 文部科学省: 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説保健体育編.  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018\\_008.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_008.pdf), 2019. (2022.9.5確認)
- 6) 文部科学省: 日本の特別支援教育の状況について.  
[https://www.mext.go.jp/content/20200109-mxt\\_tokubetu01-00070\\_3\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200109-mxt_tokubetu01-00070_3_1_1.pdf), 2020. (2022.9.8確認)
- 7) 文部科学省: 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)概要.  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm), 2012. (2022.9.7確認)
- 8) 岩沼聡一朗, 長見真: 小学校・中学校・高等学校の体育授業における見学者の状況 大学生を対象とした振り返り調査の定量的分析. 帝京科学大学教育・教職研究, 7, 49-60, 2022.
- 9) 木原俊行: 授業研究と教師の成長. 日本文教出版, 大阪, 2004.
- 10) 公益財団法人日本学校保健会: 児童生徒等の健康診断マニュアル. 勝美印刷株式会社, 東京, 2015.  
[https://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook\\_H270030/index\\_h5.html](https://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H270030/index_h5.html), 2015. (2022.9.5確認)
- 11) 須田桂子, 菅野和恵: 特別支援学校(知的障害)小学部教師の体育授業における困難さの検討—商学部教師を対象に行った調査から—. 障害科学研究, 39, 53-64, 2015.
- 12) 独立行政法人日本スポーツ振興センター: 学校の管理下の災害 (令和3年度版).  
[https://www.jpnsport.go.jp/enzen/Portals/0/enzen/enzen\\_school/R3\\_gakko\\_kanrika\\_saigai/R3saigai\\_06.pdf](https://www.jpnsport.go.jp/enzen/Portals/0/enzen/enzen_school/R3_gakko_kanrika_saigai/R3saigai_06.pdf), 2021. (2022.9.5確認)
- 13) 文部科学省: 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要.  
[https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext\\_jidou02-100002753\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf), 2020. (2022.9.8確認)
- 14) 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター: 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校保健体育.  
[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_mid\\_hokent.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_hokent.pdf), 2020. (2022.9.5確認)
- 15) 上代裕一: 自ら学ぶ生徒を育てる学習資料の工夫: 有効な学習カードについて. 島根大学教育学部附属中学校研究紀要, 35, 49-70, 1993.
- 16) 文部科学省: 特別支援教育を推進するための制度の在り方について (答申).  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/09/22/1212704\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/09/22/1212704_001.pdf), 2005. (2022.9.5確認)
- 17) 横田雅史: 学校における病弱児の体育・クラブ活動及び部活動への対応. 日本小児アレルギー学会誌, 17, 546-550, 2003.

- 18) 木村敬一：インクルーシブ教育における視覚障害生徒のスポーツ活動を阻害する要因とは何か. 教育學雑誌, 52, 15-28, 2016.

(2022年11月10日受理)

## Dealing with Frequent Observers in Practical Physical Education Classes by Junior High School Health and Physical Education Teachers

Miku HASHIMOTO, Maiko NAKAGAWA, Yuko NAKAO and Tomoko NANBA

(Accepted Nov. 10, 2022)

Key words : junior high school, physical education, frequent observers

### Abstract

In the practical physical education class in the health and physical education department, there are students who are unable to participate in physical education practical training due to injury or illness, and are observing. Furthermore, there are students who have no choice but to observe physical education for a long period of time. Therefore, the purpose of this study is to clarify the actual situation of dealing with frequent observers of practical physical education classes by conducting a questionnaire survey targeting junior high school health and physical education teachers nationwide. The survey revealed the following three points as the actual conditions of frequent observers. (1) Approximately 60% of junior high school health and physical education teachers had experienced practical physical education classes with frequent observers. (2) Approximately 70% of the observers had medical problems, such as heart disease, and psychiatric problems, such as non-attendance at school. (3) In the practical skill class, we dealt with frequent observers, but had difficulties with the learning content to be presented and the evaluation methods. Based on these actual conditions, health and physical education teachers need to respond to frequent observers in practical physical education classes according to their individual reasons for observing, and to guarantee learning about physical education. Furthermore, as a future task, it is necessary to examine the learning content and the evaluation methods for frequent observers who have various reasons for observing.

Correspondence to : Miku HASHIMOTO

Master's Program in Health and Sports Science

Kawasaki University of Medical Welfare

288 Matsushima, Kurashiki, 701-0193, Japan

E-mail : [wd221002@kwmw.jp](mailto:wd221002@kwmw.jp)

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.32, No.2, 2023 437-443)